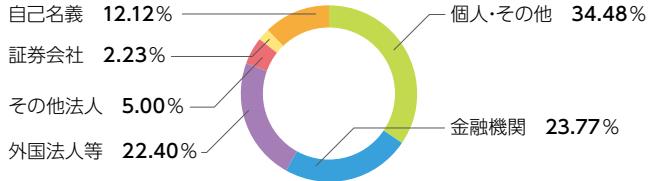


株式情報 (2017年12月31日現在)

株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,441,227株
株主数	12,231名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日 ※第42期は4月1日～12月31日までの9か月間
株主確定日	● 定時株主総会、期末配当金:12月31日 ● 中間配当金:6月30日
定時株主総会 株主名簿管理人 同連絡先	毎年3月 みずほ信託銀行株式会社 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 新東京郵便局私書箱29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 公告の方法 (公告掲載URL)	東京証券取引所 市場第1部 証券コード:6143 電子公告により行う https://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html

配当金の 口座振込 指定の ご案内	現在、郵便局で「配当金領収証」と引き換えに配当金を受領されている株主様は、「銀行口座等への振込」を指定されますと、支払開始日に指定の口座に配当金が入金され非常に便利です。配当金の口座振込のお手続きがお済みでない株主様におかれましては、口座のご指定をされることをおすすめいたします。振込指定の詳細及び手続きにつきましては、右記の窓口までお問い合わせください。	● 証券会社に口座をお持ちの場合 →口座を開設している証券会社 ● 証券会社に口座をお持ちでない場合 →三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料、土・日曜、祝日を除く9:00～17:00)
----------------------------	--	---

大株主

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	6,477,450	12.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,243,200	6.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,299,800	4.30
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	1,600,000	2.99
古川 利彦	1,195,975	2.24
ソディック共栄持株会	1,010,400	1.89
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
有限会社ティ・エフ	850,000	1.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	822,200	1.54
鈴木 正昭	742,260	1.39

株式に関するお手続きについて

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)へお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座管理機関である左記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお取り扱いいたします。 ※みずほ証券ではお取次のみとなります。

「単元未満株式買増、買取制度」を実施しております。
制度の利用の問い合わせについては、単元未満株式が記録されている口座によって窓口が異なります。詳細は以下の窓口までお問い合わせください。

- 単元未満株式が記録されている口座が証券会社の口座
→口座を開設している証券会社
- 単元未満株式が記録されている口座が特別口座
→三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-232-711 (通話料無料、土・日曜、祝日を除く9:00～17:00)



Sodick times

2017年12月期(第42期)事業報告書
2017年4月1日～2017年12月31日

特集 更なる発展と飛躍を目指し、新体制スタート
トップインタビュー

トップインタビュー

TOP INTERVIEW

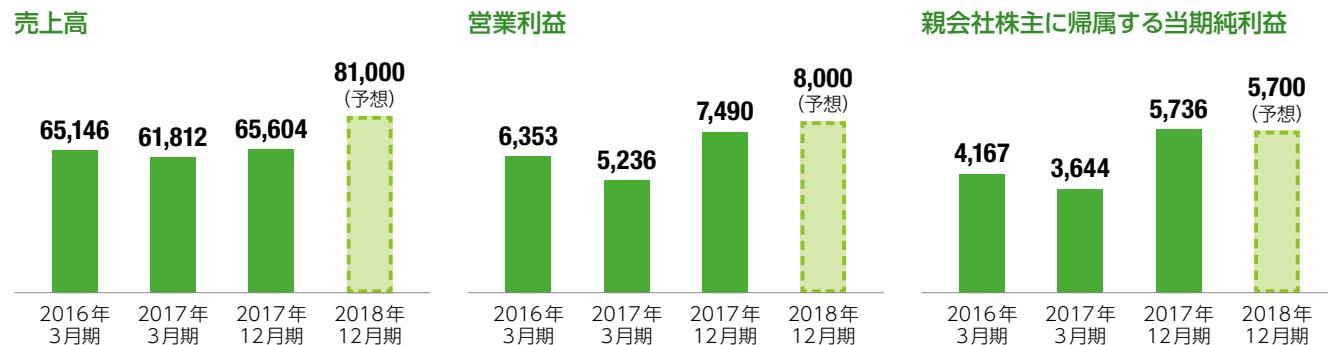
本年3月29日、当社グループの更なる発展・飛躍を図るため、新たな経営体制をスタートさせました。本特集では、金子新会長と古川新社長に、当期の業績と今後の成長戦略について伺いました。



代表取締役社長
古川 健一

代表取締役会長
金子 雄二

■ 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



※ 2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。

Q.1 2017年12月期の業績について教えてください。

金子 当社の最大のマーケットである中国において、ものづくりの高度化や自動化対応、中国政府の補助金政策の影響もあり、電動化が進む自動車関連や高機能化するスマートフォン関連を中心に高水準な受注、販売が見られました。足元では、例年受注が減速する秋口以降においても幅広い産業から旺盛な需要が継続しています。国内では2017年3月に採択されたものづくり補助金が後押しとなり、自動車、スマートフォン関連を中心に受注・売上ともに堅調に推移しました。北米は前期まで好調だった自動車、航空宇宙、医療機器関連に一服感が見られましたが、期後半にかけて回復の兆しが見られました。欧州では、ロシア、トルコ等では厳しい状況が続きましたが、ドイツ、イギリス、イタリアを中心に自動車、航空宇宙関連から堅調な需



要が見られました。アジア地域においても自動車、スマートフォン、半導体関連などで回復基調に推移しました。

以上の結果、2017年12月期は売上高656億4百万円、営業利益74億90百万円と期初計画を大幅に上回ることができました。

地域別の売上高構成



2017年12月期の連結対象期間

	2017年3月期				2017年12月期		
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
1-3月	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
3月決算会社	12か月				9か月		
12月決算会社	12か月				12か月		

※ 12月決算会社は、中国の連結子会社7社です。

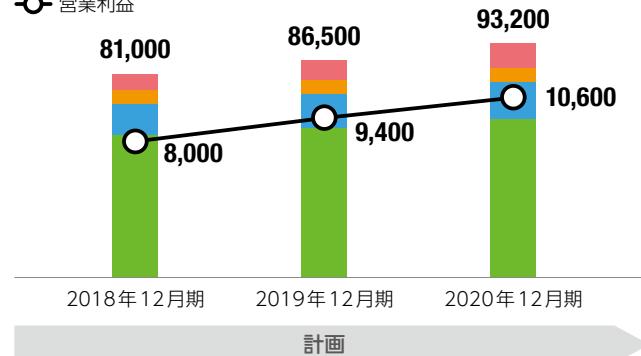
Q.2 2018年12月期通期業績見通し、中期経営計画について教えてください。

古川 米国政権の政策や欧州の政治情勢、北朝鮮情勢の緊迫化などに対する懸念はあるものの、最大のマーケットである中国での販売増加を見込んでおり、売上高は810億円と過去最高を更新する見通しです。利益面は、経営基盤の強化を図るため、人員増加、昇給を含めた人件費の増加及び設備投資の増加に伴う減価償却費等の固定費の増加を見込んでおり、営業利益は80億円を計画しております。

中期経営計画では、2020年12月期に売上高932億円、営業利益106億円を展望しております。工作機械事業では、全地域における放電加工機のシェアを拡大させるほか、金属3Dプリンタにおいて、金型分野での競争優位性

中期計画 (単位:百万円)

売上高 | ■ その他 ■ 食品機械 ■ 産業機械 ■ 工作機械
○ 営業利益



を高めると共に、部品加工分野への市場開拓により販売台数増加を図ってまいります。産業機械事業では、海外売上高比率70%以上に向上させるため、市場ニーズの高い全電動射出成形機「MSシリーズ」を拡販していきます。また、アルミニウム合金射出成形機「ALM450」、金属3Dプリンタで造形した金型専用の射出成形機「MR30」を本格的に販売をスタートさせ、新たな需要を創出させてまいります。食品機械事業では、工場拡張により生産能力を増強させ収益力の強化を図ってまいります。また、製麺技術の応用展開により、麺業界以外からの需要創出を図ってまいります。特に、国内外での需要増加が見込まれている、包装米飯製造装置の販路の確立を目指してまいります。更に、海外市場での需要を積極的に取り込むため、市場に適した製品開発を強化してまいります。

Q.3 株主還元について教えてください。

古川 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定かつ継続的な配当を実施することを基本方針としており、DOE (株主資本配当率) 2%以上を目標としています。2017年12月期は、期末配当金を期初予想から2円増配し、1株当たり年間22円の配当とさせていただきます。2018年12月期は、1株当たり年間24円とし2円の増配を計画しています。

Q.4 株主の皆様に向けてのメッセージをお願いします。

古川 ソディックグループは中長期的成長を実現させるため、経営基盤の強化を進めており、各地域において設備投資を積極的に行ってまいります。生産拠点につきましては、国内では加賀事業所に多種多様な製品が生産可能なマルチファクトリーを建設するほか、海外でもタイ工場の第2工場を増設し、更なる受注増加に対応できる生産体制を構築してまいります。販売拠点につきましては、北米、欧州の新社屋を建設し、金属3Dプリンタ、放電加工機などを展示するショールームを拡張する等、販売・サービス体制を強化してまいります。中国上海にあるオフィスも移転し、更なる販売台数増加に対応するため、中国市場での販売体制を強化してまいります。研究開発については、横浜本社に新研究開発棟を建設しており、精密金属3Dプリンタ関連の研究開発、新電源、新世代CNC等の新



たな要素技術の開発、次世代技術の開発を強化してまいります。また、持続的成長のため、人員増加、人材開発、労働環境の改善など、優秀な人員確保のため人的投資を増強させてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS 新製品

衛生的な製造システムで、安全安心な美味しいごはんを提供 無菌包装米飯製造システムを開発

製麺機の技術を応用し、家庭で炊いたような美味しいごはんを提供できる無菌包装米飯製造システムを開発しました。洗米から製品の出来上がりまで、ほとんど人手に触れずに製造できるシステムを構築し、高い安全性を実現。140℃の蒸気を活かした加圧釜により、短時間で無菌化でき、お米のうまみを最大限に引き出します。長期保存が可能なので、家庭内の備蓄食料のほか、海外での需要増加も期待されています。



TOPICS
展示会

世界初出展のMR30による自動生産システム「ICF-V」など最新鋭機を展示
IPF JAPAN 2017 (国際プラスチックフェア)に出展

2017年10月24日から5日間、幕張メッセで開催された「IPF JAPAN 2017 (国際プラスチックフェア)」に出展しました。今回は「V-LINE®が切り開く新たなソリューション」をテーマに、当社独自のV-LINE®方式を採用した様々な最新鋭射出成形機を展示しました。射出成形の自動化システム「ICF-V」を初出展したほか、全電動射出成形機のMSシリーズや大型車載部品向けの成形機、2材成形など、ものづくりを支援する最新技術を提案し、多くのお客様に実感していただきました。



IPF JAPAN 2017当社ブース

ソディックの現場から

射出成形のIoTを具現化したスマートファクトリー「ICF-V」

Sodick-IoT、MR30により実現した自動生産システムについてご紹介します。

■ ICF-V*とは?

「ICF-V」は射出成形のIoTを具現化した小さな最強スマートファクトリーです。HOST PCと複数台のMR30(金属3Dプリンタで製造した金型専用射出成形機)、自動機をネットワークでつないだシステムを構築。カセット金型の交換を自動で行い、異なる成形品の自動生産が可能となります。

*ICF-V=Injection molding Cell Factory by V-LINE® system



■ ICF-Vの特徴は?

ICF-Vは、システム全体を管理するHOST PCのアプリケーションである「ICF-V Scheduler」、生産セルシステム「MR30」、カセット型の受け渡しを行う「Cassette Stocker」で構成されます。

「何を(必要な成形品)」「いくつ(必要個数)」「いつまでに(希望納期)」の3つを入力することで、自動的に生産計画をスケジュールし、その生産計画に沿って自動的に成形品を生産します。

■ どんな効果が期待できますか?

ICF-Vは、ネットワークへ接続された機械の各種情報を活用し、監視、保守、制御、分析などを実行。周辺機器情報を一元管理できるため、材料の投入から成形品完了までの工程を見える化でき、更なる生産性向上を実現します。

業績・財務ハイライト

当期の業績について

中国を中心に放電加工機の販売台数が大きく増加したことにより
売上高・利益共に期初計画を大幅に上回りました。

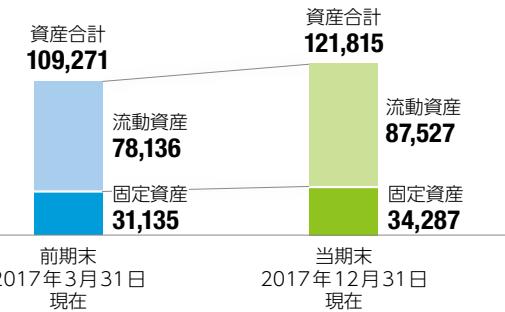
※当期(2017年12月期)は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。

売上高
656億4百万円

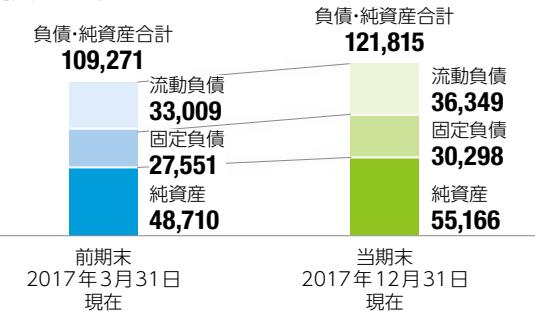
営業利益
74億90百万円

■ 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

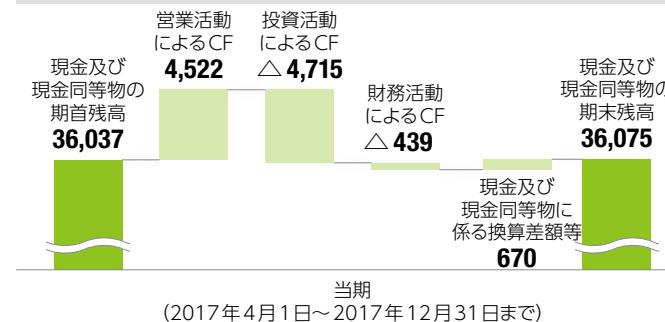
資産の部



負債・純資産の部



■ 連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位:百万円)



POINT B/S:受注台数増加に伴い、売上債権、棚卸資産が大きく増加。また、物流センター、北米の新社屋等固定資産の増加により、総資産は前期末比で大幅に増加。財務面は利益の積み上げにより自己資本が大きく増加し、財務体質が改善。

POINT C/S: 営業CFは、当期純利益が大幅に増加した一方、受注増加に伴う売上債権、たな卸資産の大幅な増加等により、45億22百万円と前期末比では減少。投資CFは、加賀事業所の物流センター、横浜本社の新研究開発棟、北米拠点の新社屋等の有形固定資産取得等により、47億15百万円と大幅に増加。財務CFは、大きな資金調達等も無く大きな変動は無し。現金及び現金同等物の期末残高は前期末比約37百万円増の360億75百万円となりました。

IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます
https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR

検索



■ セグメント別の概況 (単位:百万円)

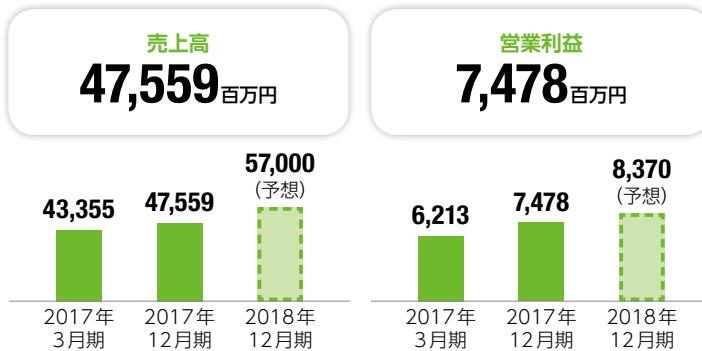


工作機械事業

放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売

最大市場である中国を中心に販売が堅調に推移。売上高、利益共に期初計画を大きく上回り業績をけん引。

当社の最大市場である中国では、ものづくりの高度化や自動化対応、中国政府の補助金政策の影響により、自動車関連やスマートフォン関連を中心に受注、販売が期初計画を大きく上回り業績をけん引しました。例年中国で受注が減速する秋口以降も、幅広い産業から旺盛な需要が継続しています。北米の需要はやや一服感がある一方、日本ではものづくり補助金の影響が追い風となり、欧州でもドイツ、イタリアを中心に、自動車、航空宇宙関連が引き続き堅調に推移しました。その他アジア地域も、自動車、半導体関連が回復基調にあります。

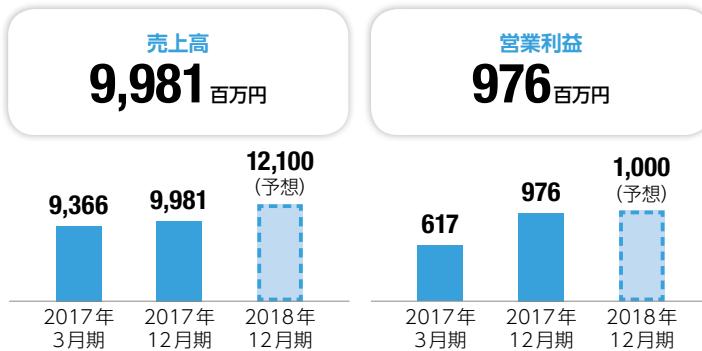


産業機械事業

射出成形機等の開発・製造・販売

日本、中国、アジアを中心に高付加価値部品向けの旺盛な需要を取り込み利益率が大幅に向上。

日本、中国、アジアを中心に車載用コネクタやセンサー部品のほか、スマートフォン及び車載カメラ用光学レンズなど高付加価値部品向けの需要が堅調となりました。また、スマートフォンの防水機能強化のためのシリコン成形機の需要も底堅く推移いたしました。

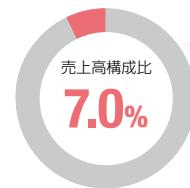
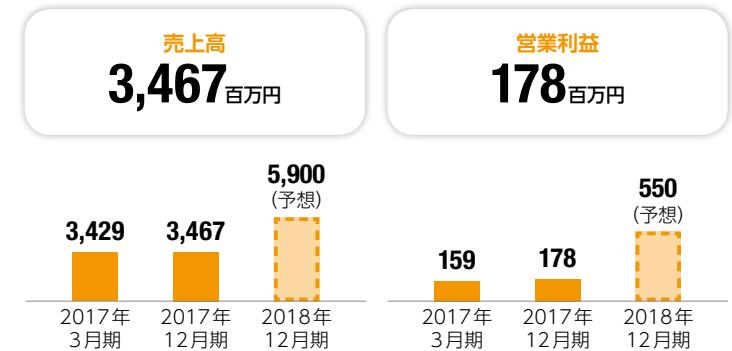


食品機械事業

麺製造プラント、製麺機等の食品機械の開発・製造・販売

製麺業界の堅調な需要に加え、製菓・包装米飯業界や自動化装置への需要も拡大。計画通りの売上高で着地。

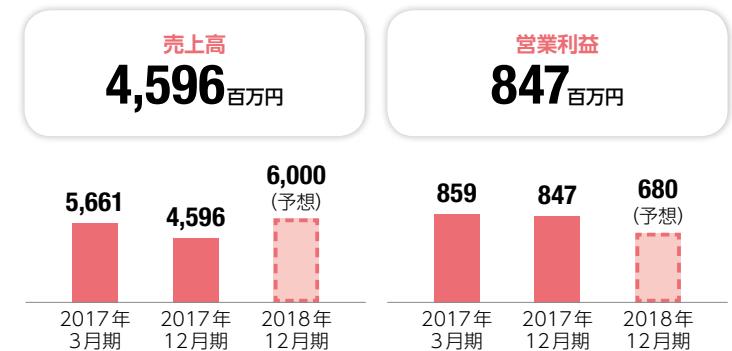
高品質な調理麺の製造設備需要が引き続き堅調となったほか、健康志向の高まりによる豆腐麺などユニークな麺製造向けや、製麺設備の一部を応用した包装米飯製造装置の需要も見られました。省人化、衛生面の向上を目的とした自動化設備の需要も拡大しています。複数案件で検収が遅れておりましたが、第3四半期に検収が進んだ結果、概ね計画通りの売上高で着地いたしました。新製品立ち上げコストの一時的な発生により利益は伸び悩みました。



その他事業

プラスチック成形品等の製造・販売、リニアモータ応用製品、セラミック製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売、放電加工機等のリース

精密金型・精密成形事業は、自動車関連から旺盛な需要が継続したほか、活況な半導体製造装置向けにセラミックの販売も好調に推移いたしました。



IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます
https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR 検索



※ 2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。



ソディック
ラウンジ

当社は、株主・投資家の皆様との建設的な対話を促進するため、様々な切り口から、わかりやすい情報開示に努め、IRツールの充実を図っています。

ソディックのテレビCM「未来の扉篇」を制作、オンエアいたしました。



CMストーリー

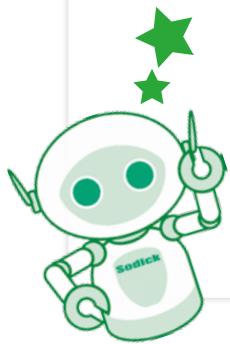
精密金属プリンタOPMシリーズの内部で金型が次々と隆起する中を颯爽と歩く本仮屋ユイカさん。面前に現れた重厚な扉を開くとまばゆい光につつまれ、OPM350Lを中心とするソディックの製品群が...! CMソングには、「鉄腕アトム」のテーマ曲を起用しています。

制作に込めたメッセージ

ソディックでは、鉄腕アトムの楽曲を使用し、その世界観と企業スローガンである“世の中に無いものは創る”を融合した企業CMを2015年より展開してきました。

今回のCMは、ソディックの主要製品である精密金属3DプリンタOPM350Lの機能と世界観を全面に打ち出し構成しています。

CMコンセプトは、「超える」。イメージキャラクターの本仮屋さんが語る「超えてゆけ。ソディック」という強いメッセージには、未来の扉を開くだけではなく、その先へ「超えていくこと。」がソディックに課せられた使命である、という強い想いと無限の可能性を込めています。



ソディック広報キャラクター「TF-1」(ティーエフ・ワン)



このCMを通して、お客様、株主様、投資家様、学生とご家族様、工作機械や産業機械、食品機械等をご存知ない方にも広く当社を知っていただくきっかけになればと考えています。

当社HPでCM動画を配信中です。ぜひご覧ください!

<https://www.sodick.co.jp/news/detail.php?newsid=337>

スマートフォンの方はこちらから



世界に広がる主要拠点

本社 生産拠点 開発拠点 販売・サービス拠点

- 加賀事業所
- 福井事業所
- 宮崎事業所
- 本社/技術・研修センター
- 韓国 Sodick Korea Co., Ltd.
- 英国 Sodick Europe Ltd. (U.K.)
- ドイツ Sodick Deutschland GmbH (Germany)
- タイ Sodick (Thailand) Co., Ltd.
- 中国 Sodick Electromechanical (Shanghai) Co., Ltd.
- 中国 Sodick (H.K.) Co., Ltd.
- 中国 Shanghai Sodick Software Co., Ltd.
- 米国 Sodick America Corporation (San Jose)
- 米国 Sodick, Inc. (Chicago/NJ/L.A.)
- シンガポール Sodick Singapore Pte., Ltd.
- 台湾 Sodick (Taiwan) Co., Ltd.
- 中国 Sodick Amoy Co., Ltd.
- 中国 Suzhou Sodick Special Equipment Co., Ltd.

会社概要 (2017年12月31日現在)

会社名 株式会社ソディック
所在地 本社
〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL:045-942-3111 (代表)
設立 昭和51年8月3日
資本金 207億8,025万6,958円
代表者 金子 雄二
従業員数 701人 (連結3,651人)
連結子会社 22社
持分法適用の関連会社 1社

役員 (2018年3月29日現在)

取締役名誉会長	古川 利彦	社外取締役	栗原 俊明*
代表取締役会長	金子 雄二	社外取締役	古田 勝久*
代表取締役社長	古川 健一	社外取締役	稲崎 一郎*
代表取締役副社長	高木 圭介	社外取締役	工藤 和直*
専務取締役(上席執行役員)	松井 孝	常勤監査役	保坂 昭夫
常務取締役(上席執行役員)	前島 裕史	常勤監査役	渡貴 雄一
常務取締役(上席執行役員)	塚本 英樹	監査役	長嶋 隆*
常務取締役(上席執行役員)	梅本 慶三	監査役	下山 和人
		監査役	奥山 富夫

*東京証券取引所の定める独立役員であります。